

グループホーム藤糸

(別紙6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300677		
法人名	社会福祉法人都賀の里		
事業所名	グループホーム藤糸		
所在地	栃木県下都賀郡都賀町白久保298-5 (電話) 0282-92-0299		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年11月16日	評価確定日	平成21年12月21日

【情報提供票より】(平成21年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	9人 9人	常勤9人(うち兼務1人), 常勤換算8.5人 常勤9人(うち兼務1人), 常勤換算8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円	その他の経費(月額)	・管理費-5,800円 ・水道光熱費-5,000円 ・日用品費および事務費-10,000円 ・おむつ代-実費 ・共益費-8,000円 ・理美容代
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食 300円	昼食	300円
	夕食 400円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,100円		

(4) 利用者の概要(平成21年10月25日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	名		
年齢	平均 85.9歳	最低	65歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 慈厚会 船越医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは自然豊かな山間の場所に入居者が自然の中で生き生きと自分らしく生活する場として、平成15年に2ユニットのグループホームとして開設された。各ユニットを理事長の思い入れから、「和」・「集」と命名しており、それぞれの言葉にちなんだ書が額装されユニット毎に掲示されている。敷地内には、同法人のデイサービスセンターや知的障害者の入所施設があり、行事や日常生活の中で交流が行われている。広い庭には多数のベンチや椅子が置かれ、外気に触れる機会を作り出している。また、飼っている犬や猫との触れ合いが出来る開放感ある生活を支援している。管理者は入居の際、家族等に「家庭にも入居者の居場所を残して置いて下さい」と伝えており、入居者と家族及び家庭や地域との関係が継続出来るよう配慮しているなど、入居者一人ひとりの思いに沿った支援に努めているホームである。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の目的や活用方法を全職員が理解しており、職員会議で評価結果について話し合ったり、質の確保や質の向上について職員間で意識の統一を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は全職員で取り組み、最終的に管理者がまとめ上げ記入している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現在、運営推進会議の開催に向け参加者の選定を行っており、町の担当職員にもメンバーの選定等についての相談や助言をもらい、運営推進会議の開催に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書には苦情相談窓口としてホーム担当者及び町の担当部署を明記している。家族が意見や不満等を表せる機会づくりとして気軽に意見等を言ってもらえる関係づくりの構築や管理者及び職員は入居者家族の立場に立った確認を行うことにより、質の向上を目指した取り組みをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームから近隣の住居までは距離があり、日常的に地域住民との交流は難しい面はあるが、自治会に加入しており、地域で開催される行事へ参加をしたり、敷地内にあるデイサービスセンターの利用者との交流なども実施している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来の理念である「自然の中でその人らしく生きいきと生きる」を目標とし、職員は入居者と共に家族の一員として地域住民と交流の下で尊厳や喜びのある生活を営み、常に入居者の立場に立ったサービス提供に配慮を心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたケアが出来るよう定例会議等を通して話し合ったり、入居者に対する日常の言葉かけ、態度、記録等のサービス提供における場面においても管理者と職員が共に理念を意識をしながら話し合い、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームから近隣の住居までは距離があり、日常的に地域住民との交流は難しい面はあるが、自治会に加入しており、地域で開催される行事へ参加をしたり、敷地内にあるデイサービスセンターの利用者との交流なども実施している。	○	入居者の事情から地域住民との交流が妨げられてしまった事例があるとの事だが、ホームとしても地域との交流の基盤を築いて行く事が大切だと考えていることから、入居者一人ひとりが地域とつながりを持って暮らし続けられるよう、地域住民との双方向的な関係を構築していくためにも、管理者等による認知症に対するキャラバンメイト等の講演の実現にも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的や活用方法を全職員が理解しており、職員会議で評価結果について話し合ったり、質の確保や質の向上について職員間で意識の統一を図っている。今回の自己評価は全職員で取り組み、最終的に管理者がまとめ上げ記入している。		

グループホーム藤糸

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議の開催に向け参加者の選定を行っており、町の担当職員にもメンバーの選定等についての相談や助言をもらい、運営推進会議の開催に向けて取り組んでいる。	○	運営推進会議では、ホームからの報告や協議を通して参加者から素直な意見を出してもらい、それをサービスの向上に活かしていくことが重要である。また、評価への取り組みや評価後の改善へ向けた取り組み状況等を参加メンバーからモニターしてもらおう等、運営推進会議と評価を結びつけ、質の確保を図っていくことから早期にメンバーの選定を行い、運営推進会議の開催に向けた取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口となって、町担当職員にホームの現状報告や運営上の相談を行っている。また、町営の地域包括支援センターには、同法人の社会福祉士が派遣されており、町の担当部署と情報の共有化も図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に入居者の健康状態やホームでの暮らしぶり等の報告をしている他、中々面会に来られない家族に対しては電話や手紙等で報告している。また、ホームでの行事や生活状況を写真入りで掲載した広報誌「ほのぼのだより」を毎月発行しており、家族にも送付している。預かり金等の金銭管理は行っていない。職員の異動等があった時には、家族の来訪時などを利用して紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には苦情相談窓口としてホーム担当者及び町の担当部署を明記している。家族が意見や不満等を表せる機会づくりとして気軽に意見等を言ってもらえる関係づくりの構築や管理者及び職員は入居者家族の立場に立った確認を行うことにより、質の向上を目指した取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が入居者を継続的に支える体制づくりをしている。敷地内にあるデイサービスセンター等との間で異動はあるが事業所間の交流もあり、入居者にとって馴染みの職員が継続的に支援できており、安心して生活している入居者の姿が見られた。		

グループホーム藤系

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員会議の場等において、段階的に力をつけていけるような学びの機会を提供している。管理者は併設事業所の管理者も兼ねており、各職員の職種や経験年数、習熟度の段階に応じた学びの機会の確保に努めている。開所から職員の離職者が出ていない事から、管理者は職員への働きやすい環境づくりや、やり甲斐の支援にも努めている。	○	管理者は職員育成に伴う研修の重要性を認識していることから、法人内の定期的な内部研修の実施や全職員が職種や経験に応じた外部研修への参加や参加後の伝達講習等を通じて、更に職員の資質向上に向けた取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会や老人福祉施設協議会に加入しており、会議や研修に参加をしている。近隣のグループホーム間とのネットワークの構築や日々の入居者の支援や職員育成に役立つ実践的な交流の取り組みを目指している。	○	町の合併を控えていることから、管理者は近隣の同業者との情報交換等の交流の機会を持ちたいと考えている。ホーム近くの公園には他のグループホームの入居者及び職員が遊びに来ていることから、今後もホームに立ち寄ってもらうよう声掛けを継続して行い、相互訪問や情報交換などを通じてサービスの質を向上させていく取り組みに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談から入居に至るまで本人の希望や思いを重視すると共に家族との話し合いを含めニーズに合った支援の検討を行っている。併設のデイサービスの利用から入居に至るケースも多く、ホームの雰囲気や職員と馴染みの関係になってから入居できる体制となっている。入居後は心理的な不安を抱えないよう入居者からの傾聴を心がけ、段階的な支援の工夫を家族等と共に行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に暮らす同士として苦しみや哀しみ、不安や喜び等、本人の思いに共感し理解をしている。年長者である入居者から生活の技や生活文化の大切さを教えてもらう場面もある。家庭菜園のナスの作り方や料理の味付け等、訪問中も職員と入居者がゆったりとした時間の中で会話している姿が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が入居者一人ひとりの思いや意向に関心を払い、思いを把握することに努めている。思いの把握が困難であったり、不確かな場合は、職員が本人や家族の立場に立って考えたり、日々の行動や表情から思いをくみ取りながら本人本位の実現に向けた取り組みに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえ、月1回のカンファレンス等により職員の意見等も取り入れながら、入居者一人ひとりのその状況に沿った具体性のある介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月に1回を目安として定期的な見直しを行っており、安定しているような入居者の場合であっても、本人・家族・職員等の意向や状況を確認し合い、必要に応じて現状に即した見直しに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算・短期利用共同生活介護の指定を受けており、関係を構築した上での入居にも繋がっている。また、入居者のその時々々の要望に応じて散歩や昔の馴染みの場所へのドライブを実施する等、柔軟な対応を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体の医院が協力医療機関になっており、月2回の往診も含め、適切な医療が受けられるようになっている。入居者が従来のかかりつけ医で受診を行う場合は家族の付添いにより対応してもらっている。日常のバイタルチェックや食事や水分摂取量等の記録を基に情報の共有を図り、健康状態の把握に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い継続的な医療処置が必要になった場合には、本人や家族の意向を確認すると共に本人にとってどうあったら良いのかを職員間でも話し合い、医師等との相談や助言を参考にして、看取りの指針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を遵守し、入居者の個人情報漏洩防止に配慮している。入居者の尊厳に配慮し、誘導等の声かけは目立たずさりげない言葉かけにより対応している。また、入居者各々の相談に乗れる場所を設定して支援に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、自由に一日を過ごしてもらえよう日課は特に決めていない。馴染みの美容室等に行ったり、入居者の希望によっては理容師にホームに来てもらい、その人らしいおしゃれが出来るよう希望に沿った支援をしている。訪問中にも一人で散歩をしている入居者がおり、「後数回歩きます」と散歩を楽しんでいる姿が見られた。		

グループホーム藤系

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の支援を行いながら一緒に同じ物を食べている。食材は業者からの宅配を利用しているが、不足分は入居者と買い物に出かけたり、職員と共に準備や片付けを行う入居者もあり、入居者一人ひとりの意志や力を活かしながら支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後4時から6時頃の時間帯で概ね週3回の入浴を行っている。職員は入浴の順番を配慮し、入浴が楽しめるようコミュニケーションを重視した入浴の支援を心がけている。入居者の体調等に応じたシャワー浴や車椅子のシャワー浴等も用意されており、入居者の状態に合わせた入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、潜在している記憶や出来る力を最大限に活かして自分らしく暮らせるよう入居者一人ひとりに合った役割や楽しみ、気晴らしの支援を行っている。訪問中にも歌を歌ったり、職員と楽しそうに話をする入居者の姿が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出支援の重要性を管理者及び職員は熟知している。また、敷地内には建物に囲まれるように広大な庭があり、所々にベンチ、テーブル、椅子等が置かれている。訪問時も季節柄か散歩している入居者の姿は数名であったが、飼っている犬や猫と触れ合い癒される姿が見られるなど、入居者の希望に応じた外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は入居者一人ひとりの外出傾向等を把握しており、職員同士の声掛けや見守りにより日中は玄関に施錠をしないケアに取り組んでいる。落ち着きがなく外に出てしまう入居者に対しては、制止するのではなく一緒に散歩する等柔軟に取り組んでいる。		

グループホーム藤系

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防設備の定期点検は実施しているが、定期的な避難訓練等は実施していない。ホームとしては、訓練する機会を設けたいと考えている。	○	災害はいつ、どの時間に起きるかわからないため、定期的な避難訓練の実施の他、消火・通報訓練の実施や夜間を想定した訓練の実施も期待したい。また、敷地内の同法人施設との連携も兼ねた合同訓練の開催や防災マニュアル等の作成についても期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事や水分の摂取量は個人記録に記載している。また、バイタル測定や体調の変化については観察記録しており、必要に応じて医師や看護師に指示を仰ぎながら適切な支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多くの時間を過ごすリビングには使いやすい配置や馴染みの物を採り入れ居心地良く過ごせるよう工夫している。また、リビング以外にもソファを置くなどして、リビングや居室以外にも居場所作りができています。共用空間には、不快な音や光、臭い等もなく、フローリングの明るい佇まいと窓越しに見える中庭の落葉が季節感を醸しだしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、入居者の使い慣れた家具や物などが数は多くはないが持ち込まれており、その人らしい居室づくりが行われている。管理者は入居の際、家族等に「家庭にも入居者の居場所を残して置いて下さい」と伝えており、入居者と家族や家庭との関係が継続出来るよう配慮している。居室の入口には、職員と共に作成した入居者の作品等が飾られている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。